

Mera Professional

取扱説明書

(Rev.2)



- この度はハンルをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ご使用前に本書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- 本書に使用している写真・イラストは説明イメージのため、実際とは多少異なります。
- 本書は大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	3
保証書	3
組み立てガイド	4
各部の名称・操作等	6
マニュアルモードでのクリーニング	7
より入念なクリーニング	9
オートモードでのクリーニング	10
クリーニング後の取り扱い	11
廃液タンクからの排水	12
メンテナンス	13
輸送時のご注意	14
その他の注意事項	14

安全上のご注意

この度はハンルレコードクリーナーをお買い上げいただき誠に有難うございます。本機を有効かつ安全にご利用いただく為に、ご使用開始前に必ずこの説明書をお読みください。

注意・警告

- ・バキュームモーターの故障を防ぐため、廃液はこまめに排出してください。
- ・アースを接続してご使用ください。
- ・廃液ホースの開閉栓が閉じた状態であることを常に確認しながらご使用下さい。特に移動した直後はこの点にお気を付けください。
- ・本機および付属の洗浄液や各種パーツは、小さなお子様手の届かない場所で使用、保管してください。
- ・洗浄液をこぼさないようお気をつけください。特に本体の前面（内部に基盤が入っています）や裏面（電源スイッチ周辺）にかかるとトラブルに直結します。
- ・ターンテーブルの回転力は極めて強力です。衣服等を巻き込まれないようご注意ください。また、引っかかりやすい衣服を着用しての操作は決して行わないでください。
- ・必ず、本機の下にオプションの専用トレイ又はビニールシート、新聞紙等を敷いてご使用ください。また万一の洗浄液の飛散に備え、周囲もコの字型のつい立て等で囲って使用して下さい。特に高価な精密機器の付近では絶対に使用しないでください。やむを得ず付近にある場合は、ビニールシート等で機器全体を覆う等の十分な保護をしてから操作してください。
- ・本製品のご使用上、万一発生したレコードや周辺機器の損傷に対して弊社は一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。
- ・安定した台の上で、水準器を用いて水平に設置してください。
- ・換気のよい部屋でご使用ください。
- ・湿気のある場所には保管しないでください。
- ・誤って洗浄液を飲用したり目に入れないようにお気をつけください。
- ・使用しないときは主電源のケーブルを引き抜いてください。
- ・使用する前に本体や電源ケーブル等に破損がないことを点検してください。
- ・部品の交換は必ず、純正のものををご使用ください。
- ・万一、発煙等のトラブルが起きた場合はすぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いた上で適切な処置をしてください。
- ・本機をレコードクリーニング以外の目的に使用しないでください。
- ・洗浄操作中はその場所を離れずに、常に注意を持って操作してください。

保証書

本製品の保証期間はご購入より 2 年間となっています。保証期間中の保守は領収証のコピーを添えて弊社にご送付ください。

自己流の修理や改造をしたものは保証の適用外となります。社外品の洗浄液を使用した場合も保証は適用外となります。修理、保守のご依頼は必ず専用の梱包箱に収納した上でお取扱い店、又は弊社へお送り下さい。

アンダンテラルゴ（株）

〒189-0013 東京都東村山市栄町 2-31-16-201

Tel : 042-393-3412

E-mail : info@andante-largo.com <http://www.andante-largo.com>

組み立てガイド

① 開梱時のご注意

ハンルは専用の梱包箱に収められています。まず箱の外側や内部の製品に損傷がないことをご確認ください。もし損傷があった場合は、3 営業日以内にお求めの販売店へ必ずご連絡下さい。(梱包箱はメンテナンス等で本体を輸送する際に必要な専用品です。捨てずに保管してください。)

② 内容品をご確認ください。

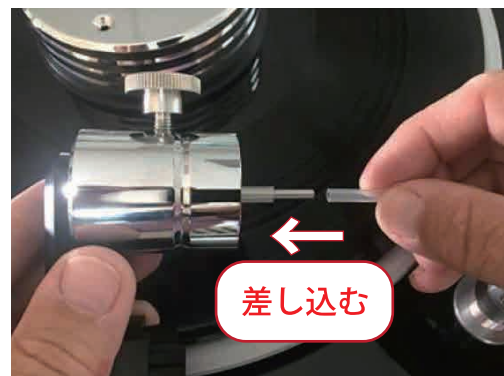
- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1. クリーナー本体 | 8. 電源ケーブル (3 ピンアダプター付属) |
| 2. 本説明書 | 9. ハンル 500FB (オートモード用洗浄液) |
| 3. ローリングブラシ | 10. ハンル 500RB (マニュアルモード用洗浄液) |
| 4. 散布・洗浄ブラシ | 11. ろうと 12. スポイト |
| 5. 吸引アーム | 13. クリーニングクロス |
| 6. 固定パック | 14. 交換用 O リング (ローリングブラシ駆動用) |
| 7. 洗浄液タンクのキャップ | 15. 吸引アーム用 交換用フェルト |

③ 広く、安定した場所で組み立てを開始

本体を安定した水平な台に置きます。スムーズかつ安全な組み立てのため、広めのスペースを確保してください。また必要に応じて脚部を回し、水準器で水平を確認しつつ、ガタがないように設置してください。

④ 散布・洗浄ブラシの取り付け

下の写真 (左) を参考に洗浄液ホースを取り付け、黒いノブのネジ山部分が支柱側面の切れ込みに差し込まれた状態で最後まで締める。

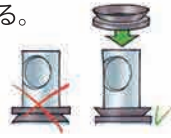


次ページへ続く →



⑤ 吸引アームの取り付け

黒いノブのネジ山部分が支柱側面の切れ込みに差し込まれた状態で最後まで締める。またその際、支柱の根元にあるパッキン(2つ)を重ねて装着されていることを確認する。



⑥ ローリングブラシの取り付け

ブラシを支柱にセット後、ワッシャーと共に高さ調整ノブを差し込む

写真は使用時の様子。

使用時以外は高さ調整ノブを完全に緩め、写真の位置よりターンテーブルの外側へ回してください。



⑦ 廃液ホースの栓が閉まっていることを確認

定期的にここから排出し、その後必ず栓を閉めてください。



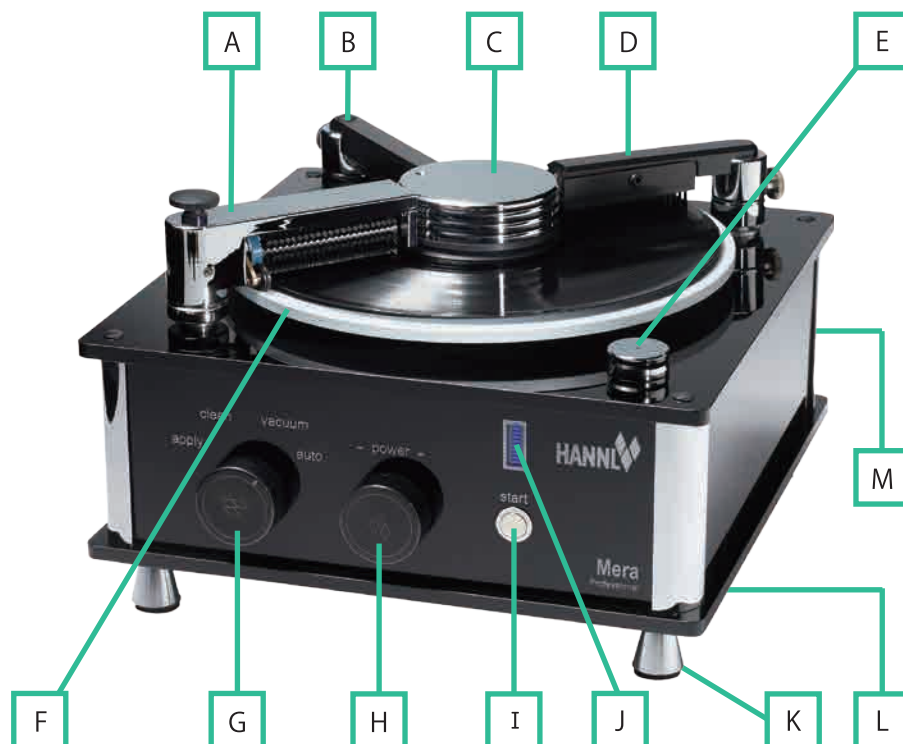
⑧ 電源コードを差し、スイッチをオンにする

本製品は入念な静電気対策が施されています。万一の漏電時の対策だけでなく、本来の性能を発揮するためにもアースを確実に接続してご使用ください。使わない時はスイッチをオフにし、電源コードを抜いてください。



各部の名称・操作等

(下記の図も含め、本書ではイメージとして3本のブラシ類全てが盤面にセットされた写真も使用しておりますが、実際に使用される前後は全てを上げ、外側へ回した状態で保管してください。)



A ローリングブラシ (高さ調整ノブ付き)
 B 吸引アーム (標準品は 30cm レコード専用)
 C 固定パック
 D 散布・洗浄ブラシ
 E 洗浄液給水口
 F ターンテーブル
 G ファンクション セレクター

H ダイヤル
 I スタートスイッチ
 J メーター
 K 脚部 (高さの微調整可)
 L 廃液ホース
 M 電源コード挿入口・主電源スイッチ

○ 操作パネルの詳細

G: 「**apply**」= 洗浄液を散布 [散布量はダイヤル (H) で調整可]

「**clean**」= ターンテーブル回転 [回転スピードはダイヤル (H) で調整可]

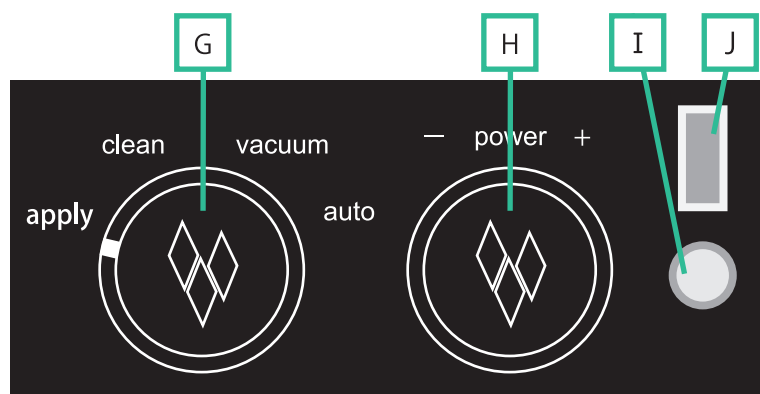
「**vacuum**」= 吸引 & ターンテーブル回転 [吸引力はダイヤル (H) で調整可]

「**auto**」= オートモード

H: 「**apply**」「**clean**」「**vacuum**」の各動作のレベル (量・スピード・強さ) を調整

I: 上記 F の各動作をスタート・「**clean**」時に洗浄液を追加散布

J: 「**apply**」「**clean**」「**vacuum**」の各動作のレベル (量・スピード・強さ) を表示



マニュアルモードでのクリーニング

ローリングブラシを使用し、徹底的に洗浄するモード。入念なお手入れにおすすめです。

① 洗浄液の準備

洗浄液給水口 (E) からマニュアルモード用の洗浄液「**ハ
ンル 500 RB**」を入れる (250ml まで)。「ハンル 500 FB」が
入っている場合は付属のスポイトで抜き取ってから入れる。
●常にタンクの 1/3 以上の水位を保ってください。(水位
が低すぎると、洗浄液ポンプによる吸い上げに支障をき
たすため)



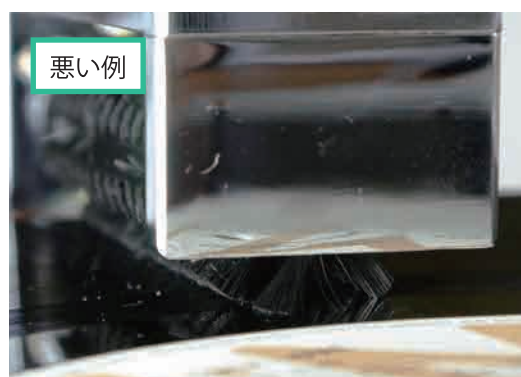
② レコードをターンテーブル (F) にセットし、固定パック (C) を乗せる

③ 散布・洗浄ブラシ (D) とローリングブラシ (A) を盤面にセットする

ローリングブラシは、高さ調整ノブを使用して下記を参考にセットする。

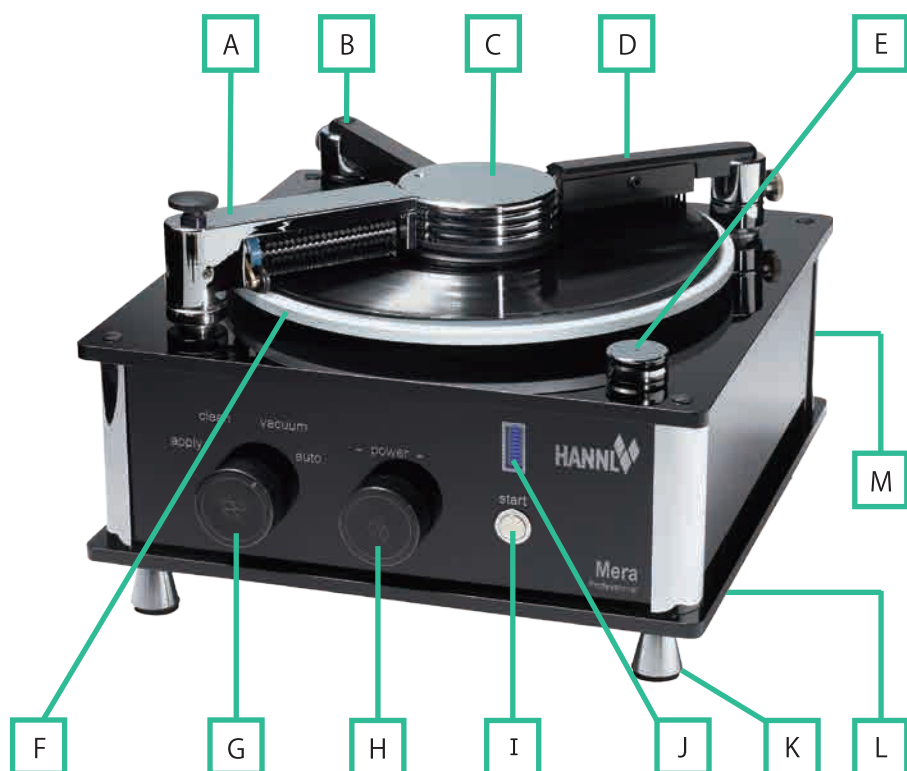


毛先が盤面へ垂直に、微かに触れる状態が
理想的な高さです。(クリーナーの後方を明
るくしたり、手元に小さな照明スタンドを置
いて見ると分かりやすく便利です。)



固定位置が低すぎるため、毛先が盤面に押
しつけられて外に広がった状態です。洗浄液
を効率良く音溝深くへ送りこむことができま
せん。

次ページへ続く →



③ ファンクションセクター (G) を「**apply**」に回す

④ メーター (J) を見ながらダイヤル (H) を回して洗浄液の散布量を決める
推奨の散布量はメーター (J) で 5 目盛りです。ブラシ類が乾燥している場合は、多めに設定してください。

⑤ スタートスイッチ (I) を押して洗浄液を散布する

●この時点では、ターンテーブル (F) は停止状態です。(洗浄液が無い or 少ない状態でブラシが盤面を擦るのを避けるため)

⑥ ファンクションセクター (G) を「**clean**」に回してスタートスイッチ (I) を押す

ターンテーブル (F) 始動。自動反転しつつ洗浄します。回転スピードはメーター (J) を見ながらダイヤル (H) を回して調整してください。推奨の回転スピードはメーター (J) で 3 目盛りです。
2 分以上の洗浄を推奨します。

●ブラシ類が乾燥していた、もしくは盤面が洗浄液をはじきやすい等の理由で洗浄液が行き渡らない場合は、スタートスイッチ (I) を押して追加散布してください。この際、液が盤面から溢れないようにご注意ください。

●自動停止はしませんので、充分に洗浄したら次のステップ⑦に進んでください。

⑦ ファンクションセクター (G) を「**vacuum**」に回す

ターンテーブル (F) が一旦停止します。

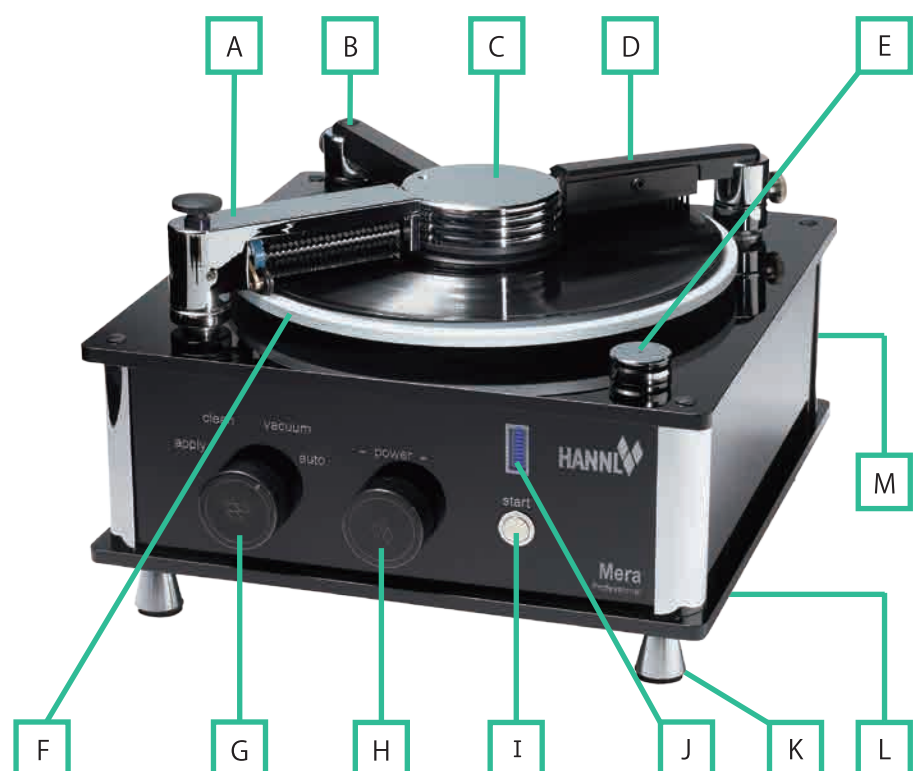
⑧ 洗浄・散布ブラシ (D) とローリングブラシ (A) を上げ、外側に回す

⑨ 吸引アーム (B) を盤面にセットする

⑩ スタートスイッチ (I) を押す

吸引モーターとターンテーブル (F) が始動。自動反転しつつ一定時間吸引し、自動で停止します。吸引力はメーター (J) を見ながらダイヤル (H) を回して調整してください。推奨の吸引力はメーター (J) で 3 ～ 4 目盛りです。

次ページへ続く →



⑪ 吸引モーターが停止したら、吸引アーム (B) を上げる

早めに吸引アーム (B) を上げてください。しばらくしてターンテーブルも停止します。

⑫ 固定パック (C) を外してレコードを取り出す

⑬ 清潔で通気性の良い内袋に入れ、室内で 30 分ほど置く

盤面に水滴が残っていないことをご確認いただいた上であれば、すぐに演奏しても問題ございません。しかし念のために、清潔で通気性の良い内袋に入れた上で、室内で 30 分ほどレコード立てや壁に立てかけて乾燥してください。内袋はアンダンテラルゴのオリジナル内袋「AL シリーズ」をおすすめいたします。

● オートモードとマニュアルモードを頻繁に切り替える方へ ●

マニュアルモード時はタンクに洗浄液 (ハンル 500RB) を入れず、ボトルのキャップ上部にある蓋から盤面に直接散布することをおすすめいたします。その場合は③～⑥での散布 (・追加散布) の手順をこちらの方法に置き換えてください。

より入念なクリーニング

通常の方法で充分綺麗にクリーニングできますが、さらにこだわる方には下記の方法をおすすめいたします。

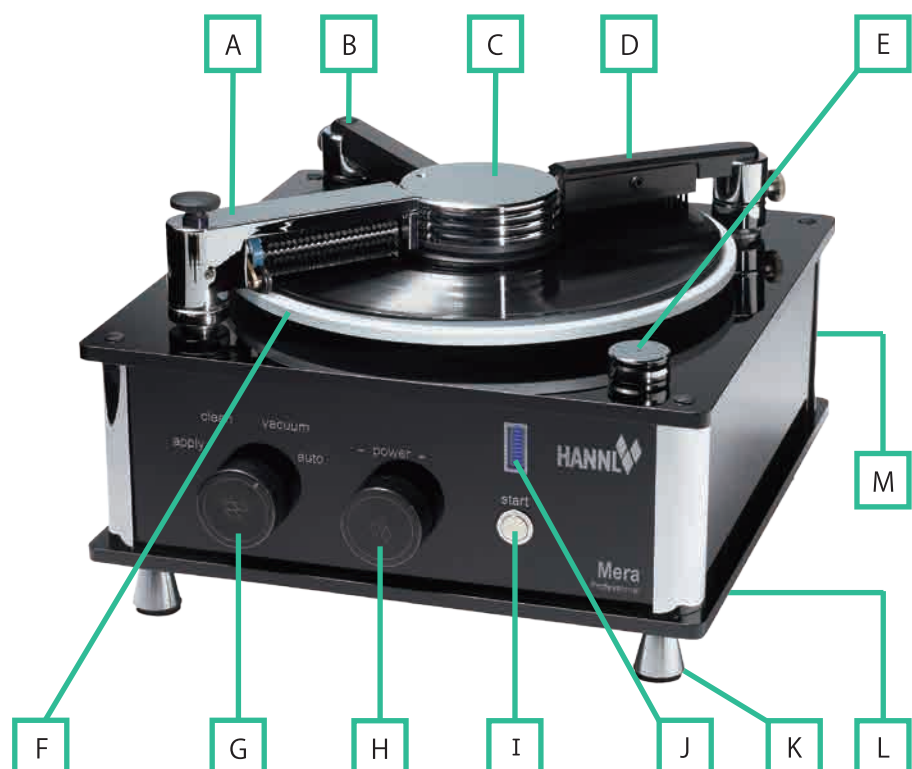
○ 2 度洗い

「マニュアルモードでのクリーニング」でステップ③～⑪をもう一度続けて繰り返すことで汚れの酷いレコードも一層綺麗にクリーニングできます。

○ 精製水の併用

「マニュアルモードでのクリーニング」でステップ⑪を完了後、市販の精製水 (ドラッグストア等で入手可) を盤面に直接散布し、ステップ⑨以降を繰り返します。

ハンルは洗浄液以上にメカニズムそのものによる洗浄力が高い設計であり、液の成分濃度は可能な限り薄めの調合としております。これは吸引後の盤面に洗浄液の成分が残留することを極限にまで抑える効果もありますが、ここに更なる万全を期すための方法としてコチラをおすすめいたします。



オートモードでのクリーニング

ローリングブラシを使用せず、手軽に洗浄できるモード。手軽なお手入れとしておすすめです。

① 洗浄液の準備

洗浄液給水口 (E) からオートモード用の洗浄液「**ハンル 500 FB**」を入れる (250ml まで)。「ハンル 500 RB」が入っている場合は付属のスプイトで抜き取ってから入れる。

●常にタンクの 1/3 以上の水位を保ってください (水位が低すぎると、洗浄液ポンプによる吸い上げに支障をきたすため)



② レコードをターンテーブル (F) にセットし、固定パック (C) を乗せる

③ ファンクションセレクター (G) を「**auto**」に回す

④ 散布・洗浄ブラシ (D) を盤面に乗せる

⑤ スタートスイッチ (I) を押す

洗浄液が盤面に散布され、数秒してからターンテーブル (F) も始動 (※)。自動反転しつつ洗浄します。残り時間の割合はレベルメーター (J) に表示されます。(※ 乾燥しているブラシがレコードと擦れないよう、液がブラシに浸透するのをしばらく待ってから洗浄を開始します)

⑥ 洗浄終了のブザーが鳴ったら、散布・洗浄ブラシ (D) を上げる

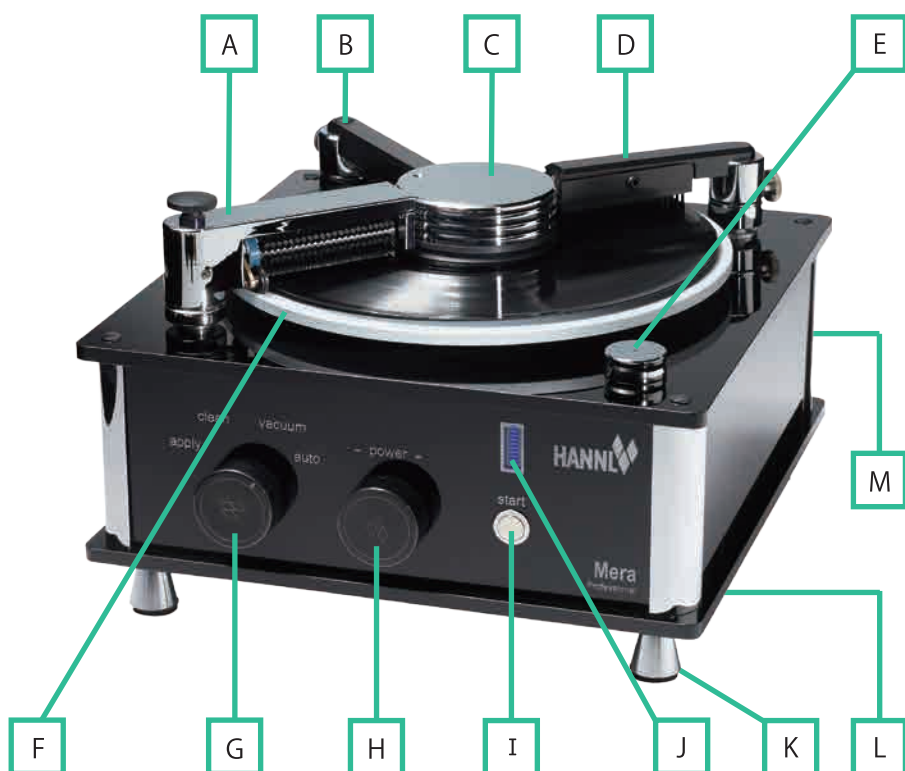
⑦ 吸引アームを (B) を盤面に乗せる

⑧ スタートスイッチ (I) を押す

吸引を開始。自動反転しつつ吸引します。残り時間の割合はレベルメーター (J) に表示されます。

⑨ 吸引終了のブザーが鳴ったら、吸引アームを (B) を上げる

次ページへ続く →



⑩ 固定パック (C) を外してレコードを取り出す

⑪ 清潔で通気性の良い内袋にレコードを入れ、室内で 30 分ほど置く

盤面に水滴が残っていないことをご確認いただいた上であれば、すぐに演奏しても問題ございません。しかし念のために、清潔で通気性の良い内袋に入れた上で、室内で 30 分ほどレコード立てや壁に立てかけて乾燥してください。内袋はアندانテラルゴのオリジナル内袋「AL シリーズ」をおすすめいたします。

クリーニング後の取り扱い

① 廃液タンクから排水する。

方法は次項目「廃液タンクからの排水」をご覧ください。廃液量が350mlを超えると容量オーバーです。内部で吸引モーター側へ廃液が流れて故障に直結しますので、こまめに排水してください。

② しばらく使用しない場合は給水口 (E) から洗浄液をスポイト等で抜く

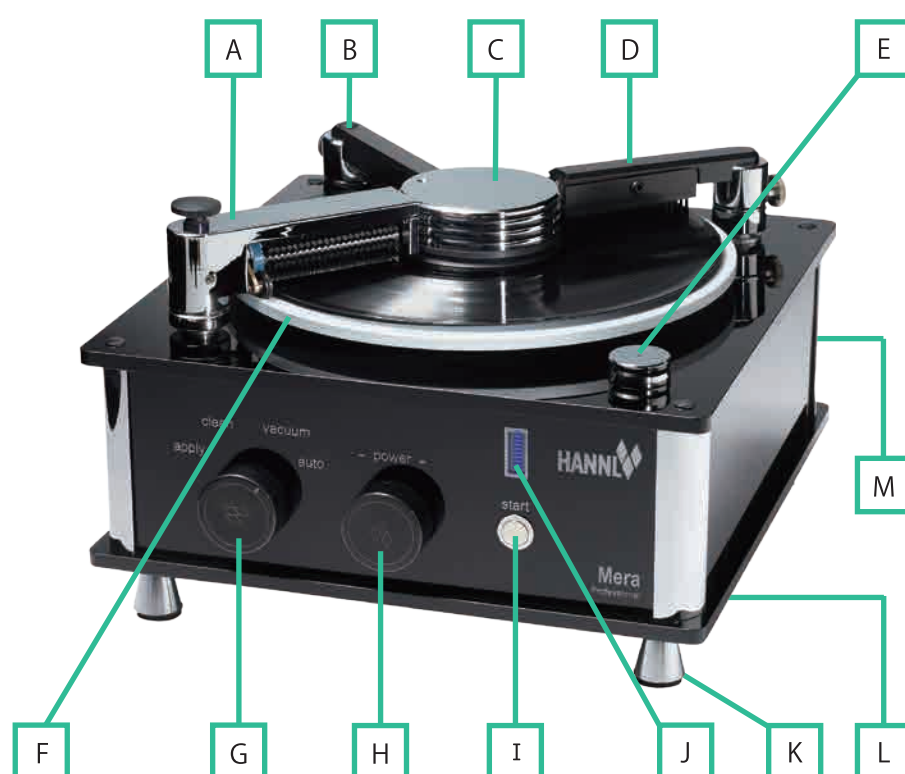
確実な洗浄力を得るため、洗浄液には防腐剤を入れておりません。タンクや洗浄液ホースを清潔に保つため、しばらく使用しない場合は必ず洗浄液を抜いてください。

③ ブラシ類はこまめに洗う

清潔を保ちつつアーム類の腐食を抑えるため、定期的に本体から取り外して水道水で洗ってください。洗ったあとは充分に乾燥させ、必要に応じて市販のグリスを支柱との接合面やゴムパッキン (吸引アームの根元) に適量塗ってください。散布・洗浄ブラシを外す際は、洗浄液ホースを本体内部に落とさぬよう輪ゴム等で支柱に固定してください。

④ 電源スイッチ (M) をオフにし、念のため電源ケーブルも抜く。

⑤ 専用品のダストカバー等でホコリが本体 (特にレコードマット部) にかからないよう対策する。



廃液タンクからの排水



①容器 (500ml 以上の容量) を用意する。

誤って廃液を飲用しないための配慮として、飲食用の容器は絶対に使用しないでください。

②クリーナー本体の下より廃液ホース (L) を引き出す

③ホースの先を容器に入れて栓を開き、排出する。

廃液ホースは、栓のクリップで押される部分がそのまま固着していることがあります。その場合は軽くほぐし、廃液が通るようにしてください。

④排出後は栓を必ず閉じる

⑤排出した使用済み洗浄液は直ぐに下水道に廃棄する

決して放置したり再利用をしないで下さい。また、他人が誤って飲用しないよう十分にお気をつけ下さい。

⑥廃液ホース (L) を収める

本体下部、右手前辺りに収める。栓と本体底面にあるマグネット同士を付けて半固定状態にする。



メンテナンス

○ ブラシ類の洗浄

清潔を保ちつつアーム類の腐食も抑えるため、ローリングブラシ(A)、吸引アーム(B)、散布・洗浄ブラシ(D)を定期的に本体から取り外して水道水で洗ってください。散布・洗浄ブラシ(D)を外す際は、洗浄液ホースを本体内部に落とさぬよう輪ゴム等で支柱に固定してください。洗ったあとは十分に乾燥させてください。

○ ブラシ類の支柱等をグリスアップ

ローリングブラシ(A)、吸引アーム(B)、散布・洗浄ブラシ(D)と支柱が接合する部分やゴムパッキン(吸引アームの根元)には、市販のグリスを定期的に適量塗ってください。動きがスムーズになるだけでなく、吸引アームとゴムパッキンはグリスで密着させることによって吸引モーターの性能をフルに発揮できます。

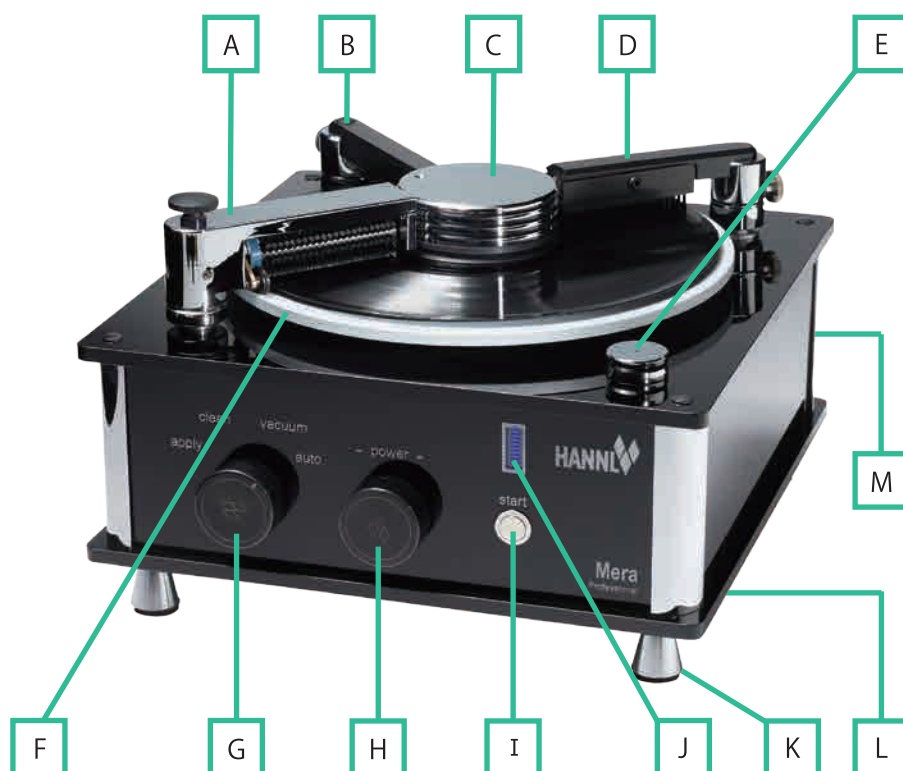
○ 吸引アーム(B)のフェルト部「ベルベトリップス」の交換

ベルベトリップスが摩耗すると吸引能力が低下し、盤面に水滴が残るようになります。消耗したものを剥がし、新しいものを吸引口のフチにぴったりと沿わせて貼ってください(下図を参照)。内側にズレていると吸引力が落ち、外側にズレているとレコードを傷つける場合がありますのでご注意ください。吸引時の要となるパーツですので、交換時は必ず純正品をお使いください。



○ ローリングブラシ(A)の「駆動用Oリング」の交換

ターンテーブル(F)とローリングブラシ(A)が接する部分のOリングが消耗すると、駆動力が拾えなくなってブラシの回転が止まる等の症状が発生します。この場合、つまようじ等を用いて消耗したOリングを外し、新たなOリングを装着してください。Oリングはセットにて純正品を販売しております。



輸送時のご注意

本体を輸送する時は、洗浄液タンク、廃液タンクを空の状態にしてから専用の箱に入れてください。廃液の処理方法は「廃液タンクからの排出(12 ページ)」を参照してください。洗浄液をタンクから抜くには大型のスポイトなどを利用すると便利です。詳細は弊社までお問合せください。

その他の注意事項

- ・レコード面に散布した洗浄液が少な過ぎたり、散布してから時間を置き過ぎて洗浄液が乾き始めた状態で吸引をするとレコード面を傷める場合がありますのでご注意ください。
- ・吸引アームが盤面にセットされていない時は、吸引のパネル操作を行わないでください。勢い良くタンク内に入った空気が廃液を波打たせてしまうため、タービンに廃液が侵入して故障の原因となる場合があります。
- ・レコードの内袋には必ず塵やホコリが入っています。クリーニング後は通気性の良い清潔な内袋に収納してください。
- ・泡を発生する洗浄液は絶対に使用しないでください。吸引ポンプの故障の原因となります。
- ・腐食性のある洗浄液も使用しないでください。本機へのダメージだけでなくレコード自身にも害があります。
- ・吸引アームのフェルトにホコリがたまることがあります。定期的に取り除いてください。
- ・その他ご不明な点は、当社のフリーダイヤル 0120-77-3412 (受付：平日 10 時～ 19 時) までお気軽にご相談ください。